

第1 吹田市肺がん検診及び結核検診実施状況

1 肺がん検診実施状況 (R3年1月8日現在)

(1) 年次別肺がん検診受診者数及び受診率

【受診率の算出方法】

- ・算出対象は40～69歳。
 - ・対象者数(推計人口)＝国勢調査において報告された人数－就業者＋農林水産従事者数
(本資料は、平成27年国勢調査をもとに対象者を算出)
 - ・受診率＝(当該年度の受診者数÷対象者数)×100
- ※「吹田市統計書」「保健センター事業概要」などの本市の報告書では、当該年度に支払った委託料の件数を「受診者数」として計上しており、本資料の報告数とは異なります。

【初回受診者について】

- ・前年度の受診がある場合は非初回、受診がない場合は初回に分類される。

表1-1 平成29年度(2017年度)～令和2年度(2020年度)(4～9月)肺がん検診実績
(40～69歳)

	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度(4～9月)		
	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計
対象者数	52,030											
受診者数	10,923	1,670	12,593	9,938	1,473	11,411	9,154	1,336	10,490	2,148	292	2,440
受診率	21.0%	3.2%	24.2%	19.1%	2.8%	21.9%	17.6%	2.6%	20.2%			
初回受診者数	4,323	1,012	5,335	3,617	773	4,390	3,320	773	4,093	746	140	886
初回の割合	39.6%	60.6%	42.4%	36.4%	52.5%	38.5%	36.3%	57.9%	39.0%	34.7%	47.9%	36.3%

参考：平成30年度受診率比較(40～69歳)

(資料：「大阪府におけるがん検診 平成30年度」より)

	大阪府	吹田市
受診率	13.2%	21.9%

表1-2 平成29年度(2017年度)～令和2年度(2020年度)(4～9月)肺がん検診実績
(40歳以上全年齢)

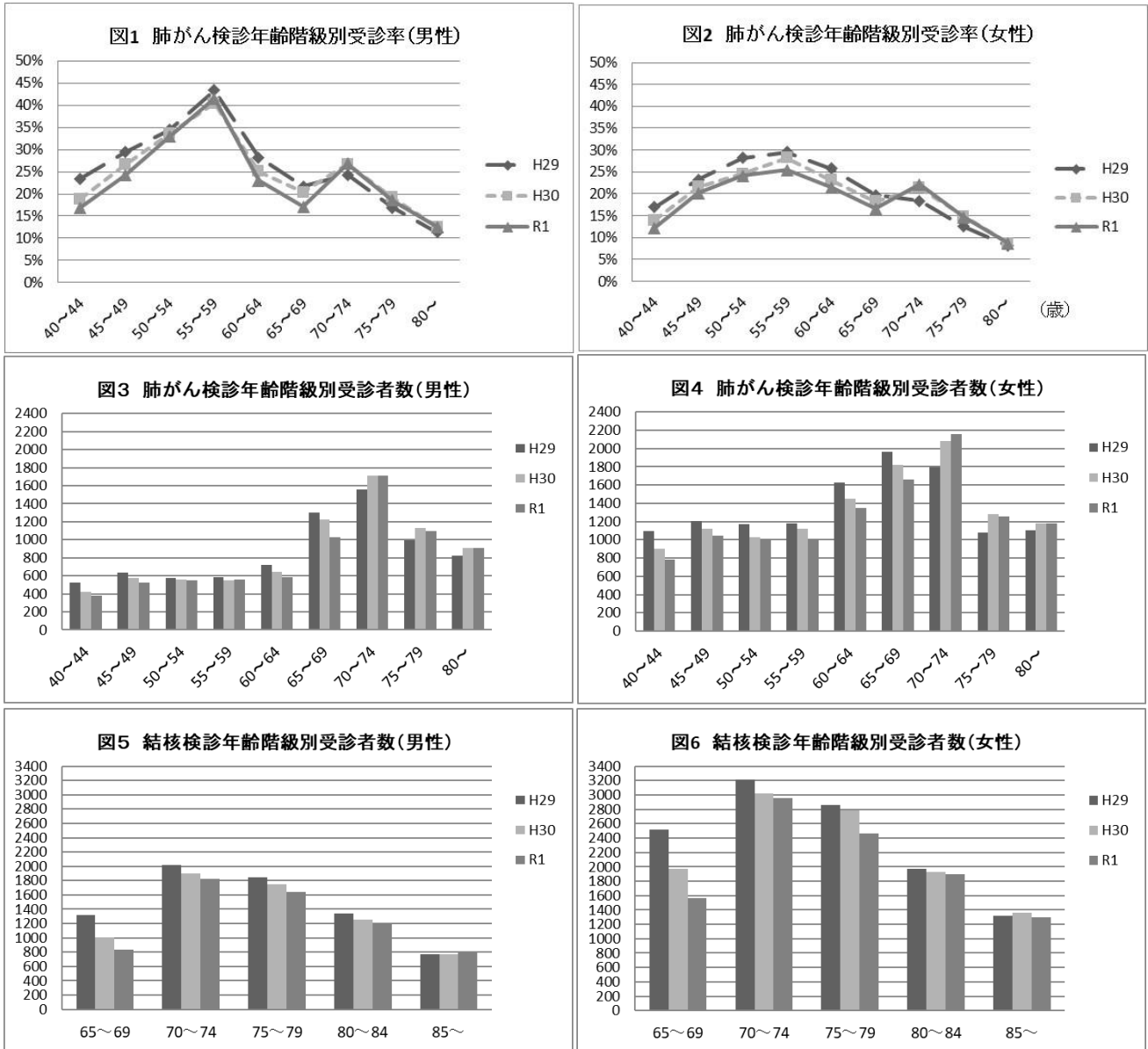
	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度(4～9月)		
	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計
対象者数	103,523											
受診者数	17,861	2,080	19,941	17,833	1,878	19,711	17,095	1,706	18,801	4,228	409	4,637
受診率	17.3%	2.0%	19.3%	17.2%	1.8%	19.0%	16.5%	1.6%	18.2%			
65歳以上受診者数	9,961	655	10,616	10,720	621	11,341	10,460	542	11,002	2,617	171	2,788
65歳以上受診割合	55.8%	31.5%	53.2%	60.1%	33.1%	57.5%	61.2%	31.8%	58.5%	61.9%	41.8%	60.1%
初回受診者数	6,601	1,139	7,740	6,367	881	7,248	5,740	871	6,611	1,414	166	1,580
初回の割合	37.0%	54.8%	38.8%	35.7%	46.9%	36.8%	33.6%	51.1%	35.2%	33.4%	40.6%	34.1%

【結果】

- ・令和元年度の40～69歳の受診率は個別検診・集団検診を合わせると20.2%であった。平成28年度から40歳から60歳までの全市民に対して受診勧奨はがきを送付してい

るが、平成 29 年度と比較すると、令和元年度は 4.0 ポイント減少している。(表 1-1)
 ・40 歳以上の受診者のうち、65 歳以上の受診者が占める割合は年々上昇している。(表 1-2)

(2) 平成 29 年度 (2017 年度) ~令和元年度 (2019 年度) 肺がん検診性別・年齢階級別受診者数・受診率及び結核検診性別・年齢階級別受診者数



【結果】

ア 肺がん検診について

- ・各年度の各年齢階級とも、受診率は女性より男性のほうが高くなっている。また、男女ともに 55~59 歳の受診率が最も高い。(図 1、図 2)
- ・年齢階級別受診者数では、男女とも 65 歳以上が多くなっており、男性では各年度とも、また女性では平成 30 年度、令和元年度については 70~74 歳が最も多くなっている。

また平成 29 年度から令和元年度までの 3 年間を見ると、年齢階級別受診者数は 40～69 歳の世代で減少し、70 歳以上で微増している。(図 3、図 4)

- ・受診率の分母となる対象者の推計人口は就業者数を除いた人数となっているため、対象者数が 65 歳以上は 64 歳以下と比べて多くなり、そのため受診率が低くなる傾向がある。

イ 結核検診について (図 5、図 6)

- ・受診者数は各年齢階級とも男性より女性が多く、男女とも 70～74 歳が最も多くなっている。

- ・受診者数はほとんどの年齢階級で、平成 29 年度が他の年度よりも多くなっており、以後年々減少している。

(3) 年次別要精検者の状況について

【プロセス指標*の算出方法】

- ・ 要精検率＝要精検者数/受診者数*100
- ・ 精検受診率＝精検受診者数/要精検者数*100
- ・ 早期がん割合＝早期がん/がん発見数*100
- ・ がん発見率＝がん発見数/受診者数*100
- ・ 陽性反応適中度＝がん発見数/要精検者数*100

※プロセス指標とは…がん検診精度管理指標のひとつ。がん検診事業は大まかに受診者の募集、スクリーニング、精密検査への誘導、精密検査、事業評価のプロセスに分かれているが、プロセス指標は各プロセスが適切に行われているかを評価するための指標。厚労省は平成20年度に各プロセス指標値の基準値（許容値・目標値）を決定し公表している。

<喀痰検査について>

国の指針による対象者(50歳以上で、喫煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)600以上の方)にて集計。

(参考) 喀痰細胞診の指導区分

- A：判定不能
- B：異常なし
- C：6か月以内の再検査
- D：要精検（悪性の可能性のある細胞を認めたため、精密検査が必要）
- E：ただちに要精検（悪性の腫瘍細胞を認めたため、早急に精密検査が必要）

表 1-3 平成29年度～令和2年度（4～9月） 肺がん検診要精検者(X線判定：E 喀痰判定：D・E) 内訳（40歳以上）

	平成29年度				平成30年度				令和元年度				令和2年度 (4月～9月まで)				許容値	
	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)		
	個別	集団			個別	集団			個別	集団			個別	集団				
受診者数	17,861	2,080	1,229	19,941	17,833	1,878	1,126	19,711	17,095	1,706	1,088	18,801	4,228	409	345	4,637		
要精検者数	672	66	2	740	694	66	0	760	670	70	2	740	143	20	0	171		
要精検率	3.8%	3.2%	0.16%	3.7%	3.9%	3.5%	-	3.9%	3.9%	4.1%	0.2%	3.9%	3.4%	4.9%	-	3.7%	3.0%以下	
精検受診者数	631	63	1	695	634	62	-	696	624	67	1	691	129	18	-	147		
精検受診率	93.9%	95.5%	50.0%	93.9%	91.4%	93.9%	-	91.6%	93.1%	95.7%	50%	93.4%	90.2%	90.0%	-	86.0%	70.0%以上	
精検結果内訳	異常なし	268	19	0	287	252	22	-	274	225	25	0	250	52	6	-	58	
	がん	22	1	0	23	20	1	-	21	16	1	1	17	0	0	-	0	
	がん疑い又は未確定	4	1	0	5	7	0	-	7	4	3	0	7	5	1	-	6	
	GGO/GGN	24	1	0	25	3	0	-	3	6	0	0	6	0	0	-	0	
	転移性肺腫瘍	2	0	0	2	1	0	-	1	1	0	0	1	0	0	-	0	
	その他	311	41	1	353	351	39	-	390	372	38	0	410	72	11	-	83	
未受診/未把握	41	3	1	45	60	4	-	64	46	3	1	50	14	2	-	16		
がん発見率	0.12%	0.05%	0%	0.12%	0.11%	0.05%	-	0.11%	0.09%	0.06%	0%	0.09%	0.00%	0.00%	-	0.00%	0.03%以上	
陽性反応適中度	3.27%	1.52%	0%	3.11%	2.88%	1.52%	-	2.76%	2.39%	1.43%	50%	2.30%	0.00%	0.00%	-	0.00%	1.3%以上	

[参考] プロセス指標比較 (平成29年度) (40歳以上)

	全国	大阪府	吹田市
要精検率	2.0%	2.3%	3.7%
精検受診率	82.9%	87.6%	93.9%
がん発見率	0.06%	0.07%	0.12%
陽性反応適中度	2.74%	3.08%	3.11%

参照：「国立がん研究センターがん情報サービス
「がん登録・統計」

【結果】(表 1-3)

- ・各年度とも精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度は許容値を満たしている。
- ・要精検率については各年度とも3%を上回っており、特に令和2年度(4~9月)の集団検診では要精検率が4%を超える結果となっている。

2 肺がん検診(個別検診)のX線判定状況(R3年1月15日現在)

<X線判定について> (吹田市の読影体制)

一次読影にて d・e判定：要精検 b・c判定は二次読影へ

二次読影にて b・c判定：最終判定をb・c判定として一次医療機関に結果返却

二次読影にてd・e判定は、読影委員会(三次読影)へ

※読影委員会では、済生会吹田病院・済生会千里病院・市立吹田市民病院の3病院以外の肺がん検診受診者のうち、二次読影でd・e判定のケースのみ読影。(令和元年度まで)

(参考) X線判定の意味(最終判定は大文字で記載)

b：異常所見を認めない

c：異常所見を認めるが、精査を必要としない

d：異常所見を認めるが、肺がん以外の疾患が考えられる(肺がんは否定)

e：肺がんの疑い ※国の報告に従い、E判定を肺がん検診要精検とする

表 2-1 令和元年度肺がん個別検診読影内訳(人)
受診者数 15,786 人

〈一次読影〉		〈二次読影〉		※〈読影委員会〉	
b	12,340	b	11,068	B	115
c	3,090	c	3,844	C	51
d	87	d	30	D	9
e	269	e	488	E	343
		15,430		518	
				(3.36%)	
〈最終X線判定〉				〈読影委員会結果〉	
B	11,183	70.8%	がん	9	
C	3,895	24.7%	うち早期がん	8	
D	96	0.6%	陽性反応適中度	2.62%	
E	612	3.9%	がん照会中	2	

表 2-2令和2年度(4~9月)肺がん個別検診読影内訳(人)
受診者数 4,228 人

〈一次読影〉		〈二次読影〉		※〈読影委員会〉	
b	3,273	b	2,968	B	20
c	862	c	1,067	C	10
d	18	d	4	D	2
e	75	e	96	E	68
		4,135		100	
				(2.42%)	
〈最終X線判定〉				がん:0 がん照会中:2	
B	2,988	70.7%			
C	1,077	25.5%			
D	20	0.5%			
E	143	3.4%			

【結果】

・令和元年度は受診者数 15,786 人のうち、一次読影でb・c判定となった 15,430 人に対して二次読影を実施し、d・e判定となった 518 人に対して三次読影を実施している。そのうちE判定となったのは 343 人で、肺がんと診断されたのは 9 人だった。

3 肺がんであったケースの詳細 (R3年1月15日現在)

表 3-1 令和元年度 肺がん個別検診 肺がん及びがん疑いであった
個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表 3-2 令和2年度 (4~9月) 肺がん個別検診 肺がん及びがん疑いであった者
個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

【結果】

肺がんと診断された20人のうち、肺がんの病期分類が確定している者は15人。男性が12人、女性が3人と男性が多い。年齢は、65~69歳が2人、70~74歳が8人、75~79歳が3人、85歳~2人と、70~74歳が最多であった。

肺がんの病期分類が確定している15人のうち、約86.7%の13人が早期がん(I)で発見されている(うち初回3人、非初回10人)。ステージII以上で発見されたがんは2人(初回2人)であり、非初回者はいなかった。

また15人のうち、組織型は腺がん11人、扁平上皮がん3人、小細胞がん1人であり、喫煙者11人、非喫煙者0人。不明者4人であった。喫煙との関連のある、扁平上皮がん・小細胞がんの喫煙率は100%であり、喫煙指数も高い。肺がんの中で最も多いとされる腺がんも、11人中6人が喫煙者(非喫煙者は1人)であった。

令和2年度の肺がんと診断された5人については、現在照会中である

4 プロセス指標について

(1) 一次医療機関ごとのプロセス指標 (別紙1)

【結果】

全部で123医療機関実施しており、受診人数にもばらつきがあるため評価は容易ではないが、要精検率が許容値を達成している医療機関は14医療機関、精検受診率が許容値を達成している医療機関が83医療機関(うち、目標値を達成している医療機関は72医療機関)、がん発見率・陽性反応適中度が許容値を達成している医療機関は13医療機関であった。

(2) 二次読影医のプロセス指標

表 4 二次読影の判定状況(吹田市全体)

	二次読影数 (人)*1	読影委員会 対象者(人) *2	要精検者数 (人)*3	要精検率	精検受診者 数(人)	精検受診率	がん発見数			がん発見率	陽性反応 適中度
							早期がん (再掲)	早期がん 割合			
令和元年度	15,430	518	343	2.2%	324	94.5%	9	8	88.9%	0.06%	2.6%

*1: 一次読影にてb・cと判定した数 *2: 二次読影にてd・eと判定した数

*3: 最終読影にてEと判定した数

【結果】

要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度はいずれも許容値を満たしている。精検受診率については目標値も満たしている。

5 結核検診実施状況 (R3年1月15日現在)

表5 平成29年度～令和2年度(4～9月) 結核検診実績

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (4～9月)
対象者数		67,462			
受診者数		19,176	17,749	16,473	5,643
受診率		28.4%	26.3%	24.4%	8.4%
要 精 検 者 数	結核疑い	41	54	46	12
	肺腫瘍性病変	454	460	420	135
	合計	495	514	466	147
要精検者率		2.6%	2.9%	2.8%	2.6%
精検受診者数		425	434	404	95
精検受診率		85.9%	84.4%	86.7%	64.6%
精 検 結 果 内 訳	異常なし	153	124	153	29
	活動性結核	1	2	1	0
	がん	11	13	8	0
	転移性肺腫瘍	1	2	0	0
	がん疑い又は未確定	4	5	5	7
	その他	255	288	237	58
未受診/未把握		70	80	62	52
がん発見率		0.06%	0.07%	0.05%	0.00%
陽性反応適中度		2.22%	2.53%	1.72%	0.00%

※【受診率の算出方法】・対象者数(推計人口)=国勢調査において報告された65歳以上の人数-就業者+農林水産従事者数(本資料は、平成27年国勢調査をもとに対象者を算出)・受診率=(当該年度の受診者数÷対象者数)×100 ※「吹田市統計書」「保健センター事業概要」などの本市の報告書では、当該年度に支払った委託料の件数を「受診者数」として計上しており、本資料の報告数とは異なります。

表6-1 令和元年度 結核検診 肺がん及び肺がん疑いであった者

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表6-2 令和2年度(4月～9月) 結核検診 肺がん及び肺がん疑いであった者

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

【結果】

結核検診から結核は平成29年度に1人、30年度に2人、令和元年度に1人発見され、令和2年度は9月受診者までで0人である。

肺がんと診断された13人のうち、病期が確定している者が8人で、性別は男性が3人、女性が5人、年齢は、65～69歳1人、70～74歳が4人、75～79歳が2人、80歳以上が1人。肺がんの病期分類が確定している8人のうち、5人が早期がん(I)で発見されている(初回1人、非初回4人)。ステージII以上で発見されたがんは3人(初回2人、非初回1人)。また、組織型は、腺がん5人、扁平上皮がん3人でした。結核検診のため、喫煙指数は不明です。

令和2年度の肺がんと診断された7人については、現在医療機関照会中である。